

〔研究ノート〕

スタディスキル I 授業報告2020

The Report on “Study Skill” 2020

中村学園大学 流通科学部

福 沢 健・音 成 陽 子・浅 岡 由 美・坂 本 健 成
橋 本 敦 夫・日 野 修 造・山 田 啓 一・姉 川 正 紀
水 島 多美也・徐 涛・中 川 隆・前 嶋 了 二

1. はじめに

中村学園大学流通科学部では、1年前期に必修科目として「スタディスキルI」という科目を実施している。「スタディスキルI」は流通科学部に入学した新1年生を対象とする初年次教育科目として、大きな役割を果たしている。その位置づけ・テーマ・到達目標は次の通りである。

【位置づけ】

大学生活および流通科学部での学修に必要な基本的能力、特に、Academic Literacy を身につける科目として位置づけられる。

【テーマ】

高校生活から大学生活へ順調に移行し、大学で自分を成長させ、大学での学び方を知り、社会人としての素養を修得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) 大学生活の心構えを知り、新しい仲間との親睦を図ることができる。
- 2) 興味を持った分野を自ら追求する能動的な学習が必要なことを実体験し、それに必要なスキルを身につけることができる。
- 3) 流通科学部のカリキュラムに対する理解を深め、そのために今何をやるべきかを考えることができる。

2. 授業概要及び授業計画

まず、「スタディスキルI」の授業概要及び、

授業計画（15回）を示す。

授業は、前半（1～8回）は、感染症の関係でWeb授業を実施したため、課題（グループワーク、リサーチ、ディスカッション）を決めて、それを提出させてレポートを提出させるかたちで授業を進めた。後半（9～15回）は、対面授業が再開されたので、教員によるオムニバス授業を行った。

各回の授業内容は、以下の通りである。

- 第1回 Web 授業：ガイダンス
- 第2回 Web 授業：課題1) 大学生活の計画
- 第3回 Web 授業：課題2) 事業持続可能な開発目標（SDGs）とは何か
- 第4回 Web 授業：課題2-1) 事業持続可能な開発目標（SDGs）の文献検索（書籍と論文）
- 第5回 Web 授業：大学生活1ヶ月の振り返りとこれまでの課題のWeb提出
- 第6回 Web 授業：課題3) レポートの書き方
- 第7回 Web 授業：課題3) 追加の調査とレポート作成
- 第8回 Web 授業：課題3) レポートの作成と提出
- 第9回 オムニバス授業1（クラス別に教員が各専門分野の入門講義と課題の提示）

- 第10回 オムニバス授業2（クラス別に教員が各専門分野の入門講義と課題の提示）
- 第11回 オムニバス授業3（クラス別に教員が各専門分野の入門講義と課題の提示）
- 第12回 オムニバス授業4（クラス別に教員が各専門分野の入門講義と課題の提示）
- 第13回 オムニバス授業5（クラス別に教員が各専門分野の入門講義と課題の提示）
- 第14回 大学での学び（留学、海外スカラシップ報告会）
- 第15回 スタディスキルIのまとめ

まず、昨年度との違いを述べる。1年生の指導主任が増えた関係で、担当者が昨年度の8名から12名に増えた。また、流通科学部でTOEIC Bridgeを導入した関係から、プレイスメントテストを廃止した。また、例年行なってきた図書館ツアーは、感染症対策から廃止、代わりに各課題において、図書館をなるべく使うように心がけた。

後半に実施したテーマ授業であるが、各指導主任は、1時間ずつ順番にローテーションを組んで、それぞれテーマの授業を各クラスで順番に行っていく（今年度は、前半と後半とに分けて、それぞれのグループの中でローテーションを組んだ）。そして、そこでテーマに基づいた課題を行い、そのレポートの作成を学生に課す。したがって、各教員は、テーマ授業を各クラスに対して計5回繰り返すことになる。

評価方法は、①課題（大学での学び）のレポート・発表（40%）、②オムニバス授業のレポート（60%）とした。そこに、出席状況及び積極性等によって加点・減点を加えた。

【テーマ授業の例】

●福沢健 吉見俊哉「ディズニーランド」を読む

大学の勉強の意味と、必要な技能（読解力・要約力・思考力）とを考えてもらうために、「ディ

ズニーランド」を例にとってワークショップを行った。

東京ディズニーランドの地図、北九州スペースワールドの地図を配布して、両者の違いをグループごとに討論して、発表させた。

次に、吉見俊哉「ディズニーランド」を読ませて内容を要約させ、そこで、自分たちが漠然と考えていたディズニーランドの特徴は、「インタラクティブ性」「三次元のアニメーション」という明確なコンセプトに基づいて作られたものであることを認識させた。ここで、大学の勉強とは、理解できないような難しい理論を覚えるものではなく、自分たちが漠然と感じていたもの、感覚的に捉えているものについて、論理的に説明するものであることを強調した。また、ディズニーランドの特徴については、他の立場からもさまざまに説明されていることを述べたうえで、大学の勉強とは一つの結論を覚えるものではないということも述べた。

レポートは、吉見の論文を踏まえて、ディズニーランドと他のテーマパークとの違いをまとめさせた。

●音成陽子「社会的健康のために」

私たちは他者との関係を抜きに、生活を送ることが困難である。小さな家族という社会から、大きな国家まで、何らかの関係を築いているからである。そこで、WHOの健康の定義の中から、社会的健康について、考えてみよう。

WHOの「健康の定義」（日本WHO協会訳による）

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。

人が生き生きと自分らしく生きるための重要な条件の一つに「社会的健康」があげられている。社会的健康には個人の性格や能力といった資質も少なからず影響する。なぜならば、社会的に健康であるということは、他者や社会においてうまく関係性を保てることといえるからである。そこで、提示した課題は以下の4つである。

①タイプ A の性格・行動パターン診断法

- ・交感神経優位の性格・行動傾向か否かを知る
- ・好ましい行動を理解する

②自己抑制型行動特性尺度・

- ・他者に対して、あなたはどのような行動をとる傾向にあるかを知る
- ・状況に応じた自己抑制すること、自分らしさを示すことの重要性を理解する

③遺伝的気質チェックリスト

- ・自分が遺伝的に持つ気質の傾向を知る
- ・各気質に応じたセルフケアを理解する

④①～③のチェックリストの結果から「あなたの性格や行動の特徴は何か」「社会生活において注意すべきことは何か」をレポートする。

【参考・引用】

* Ai Ikeda 1, Hiroyasu Iso, et al. (2008), Type A Behaviour and Risk of Coronary Heart Disease: The JPHC Study, International Journal of Epidemiology, 1395-1405.
 * 北海道心臓協会, 『心臓・血管病の危険因子「性格・気質」』
<http://www.auroranet.or.jp/life/heart/kikeninshi/77/index.html> (2020/05/22閲覧)
 * 厚生労働省, 「休養・こころの健康」,
https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/b3.html (2020/05/22閲覧)
 * 宗像恒次 (1995), 行動医学における社会学的視角, 行動医学研究 2 (1), 20-28.
 * 宗像恒次・田中京子ほか (2007), SAT 気質コーチングによる人間関係のコラボレーショ

ン,

ヘルスカウンセリング学会年報 vol.13, 1-11.

* 日本 WHO 協会, 「健康の定義について」,
<https://www.japan-who.or.jp/commodity/kenko.html> (2020/05/27閲覧)
 * 杉本恒明・山科章, 日本心臓財団「心臓病や突然死と性格や行動(タイプ A)が関係するって本当?」,
<https://www.jhf.or.jp/topics/2014/003578/> 2014.07.17掲載 (2020/05/25閲覧)
 * 東京大学身体運動科学研究室 (2009), 「教養としての身体運動・健康科学」, 東京大学出版会, p.69.
 * 山崎喜比古・朝倉隆司編 (2001), 「生き方としての健康科学 第二版」. 有信堂, 13-21.

●浅岡由美 Note Taking (ノートの取り方)

1. 授業の目標

大学の授業において、教員の発言に注意を向けずにパワーポイントなどスライドの文字を漏らさずにノートに取ろうとする学生が散見される。高校時代は、教員の説明と板書、生徒のノートを取る行為が同時に行われ、板書をすべて書き取ることが可能であり、この方法に慣れているからであると思われるが、大学の授業形態、進度に応じたノートの取り方を理解する必要がある。そこで、大学の授業の特徴を把握したうえで、ノートの取り方を理解し、実際にうまくノートを取ることができるようになることを授業の目標とした。

2. 授業内容

受講者は2つの内容をノートに取った。ひとつは「大学の授業の特徴」「ノートの取り方」に関する授業である。授業終了後に提出された感想には「言われてみれば、教科書や配付された資料に記されていることをノートに取るよりも、先生の言葉に注意を向けるほうが大切だ」「重要な点に関する各先生の学生への伝え方をつかみたい」「試験のときに役に立つようなノー

トを取りたい」などが記され、ノートを取り方の要領を理解したようであった。

もうひとつは、日清食品株式会社の創業者、安藤百福氏の動画映像(公益財団法人藤井財団、<https://www.youtube.com/watch?v=BEvVUKI0GKw>)である。視聴後、①この物語の主人公の名前は何ですか？ ②その人は何をした人ですか？ ③その人が作ろうとしたモノの目標として掲げた5項目は何でしたか？ ④その人が作ったものを販売したとき、その商品名は何で、価格はいくらでしたか？ ⑤その人がよく口にしていた言葉は何でしたか？ について回答を求めた。①、②、④の商品名と⑤はほぼ全員が回答できたが、③、④の価格の正答者は少なかった。経営学的なポイントをノートに取ることに慣れていないことが示唆された。

最後に、日清食品株式会社、日清食品ホールディングス株式会社の企業概要、経営状況、グループ企業、グローバル展開について説明し、教室では簡単な意見交換を行った。これからの学びに関連する企業研究に興味を持ったという学生も見られた。

●坂本健成 「地域活性化」で学ぶ説得力が増す伝え方・知的文章

坂本が担当したオムニバス授業では、第8回授業までの内容を振り返りながら、いかに説得力のある文章(レポート)を作成するかを中心に、講義・議論・レポート作成を行った。なお、コロナ感染症対策として登校しない学生にはMicrosoftのビデオ会議システム「Teams」を利用して、自宅等でリアルタイムに受講できるように配慮した。

・この授業のねらい

(ア) 読み手(聞き手)を納得させる、説得力のある文章(話)がどのようなものか理解する。また、そのために必要な思考法を理解し、実践してみる。

(イ) 「地域活性化」について(なんとなく)

理解する。

(ウ) 「地域活性化」をテーマに、賛成・反対・どちらともいえないの立場から説得力のあるレポートを作成する。

第8回授業まで受講生は「SDGsとは何か説明する」、「SDGsの17項目から1つを選んで説明する」、「書籍・論文を検索する」等の課題を行っている。受講生は、大学に入学して間もない一年生であり、また、新型コロナウイルスの影響もあって、知的文章や地域活性化に関する知識は習得していない状況である。とはいえ、何も習っていない、何も知らないことを考慮しても、これまで提出されたレポートは形式的にはレポートの要件を満たしていても、内容について「なるほど！納得！」と思わせるものはほとんどなかったという印象であった。

授業は、冒頭で上記について触れた上で、その原因について受講生と一緒に考えていくことから開始した。どのクラスの受講生も自分たちのレポート(自分の考えを述べること)について、「書いている自分自身が書いた文章に納得(理解)していない」ことに気づき、理解した様子であった。その後、小論文とレポート・論文(卒業論文)の違いや、それぞれの基本構成(序論・本論・結論～論文を構成する6つの要素等)、自分の考えに肉付けするための思考法等、地域活性化の概要について講義を行い、最後に、特に意識してほしい3項目(下枠線内)を示した上で、「地域活性化」をテーマとした知的作業を実践した(レポート課題の指示は以下①～③)。

- ・人を納得させるには、書いている(話している)本人が納得すること！
- ・自分自身の「なぜ？」をできるだけ取り除く！
- ・信頼性の高い複数の情報を確認し、引用することも大切！

レポート課題

- ①地域活性化とは何か（地域活性化の目的と代表的な事例を含める）
- ②地域活性化の課題（難しさ）は何か
- ③あなたが考える地域活性化のアイデア（事例に対する賛否の意見でも可、もちろん根拠も含める）

●橋本敦夫 データを経営に役立てよう！

この授業は、ある商店の売上げ実績表をもとに、学生が Excel を使って売上が大きい商品順に並べ替え、売れ筋である商品群やそうでは無い商品群などに分類し、分類した各商品群に対してこの商店が行うべき今後のマーケティング活動の方針を考えるという取り組みを行った。今回の基準は売上の累積構成比率70%以下の商品群を A 群、70%より大きく90%以下の商品群を B 群、90%より大きい商品群を C 群とした。取り扱う商品等が異なる場合は分類するパーセントの値が変わることも説明した。

学生は、教員が提供した Excel ファイルを使い、売上の大きい順に商品名と売上高を並べ替え、売上構成比率と売上累積構成比率を求めた。全ての商品を A 群、B 群、C 群に分類し、棒グラフと折れ線グラフによるパレート図（図 1）を作成した。

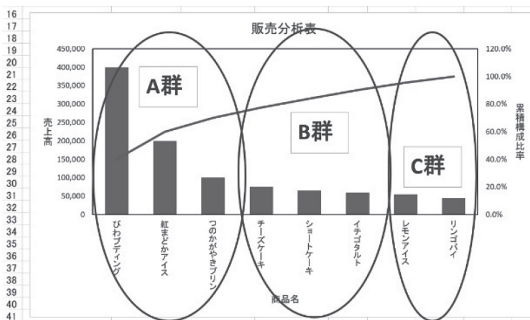


図 1. Excel を使った ABC 分析のためのパレート図

学生は Excel の表とグラフの結果をもとにこの商店のマーケティング活動の方針を考えた。

A 群に属する商品は品質を保ち品切れを起こさないことが大切であることや、C 群に属する商品は販売促進を行うべきであるなどの方策を考えることができた。学生は Excel で数式や関数を用いて表やグラフを作成することによって、商店のマーケティング活動に向けた提案ができることを学ぶ機会になった。



図 2. N-note を使って課題に取り組む学生達 (1a クラス、2020年6月18日 (木) 撮影)

●日野修造 簿記会計を学ぶ意義

日野が担当したオムニバス授業では「簿記会計を学ぶ意義」について、講義を行った。簿記や会計は、企業経営に不可欠な知識・技術であり、本学では簿記 I が必修になっているため、本講義においてその重要性を伝える意図を持っての実施である。また、簿記の講義は科目の系統性が強いいため、予習・復習が大切であることを周知する狙いもあった。

講義は大きく次の3つの手順で展開した。

- ①簿記の基礎知識が経営に役立つ理由とは？
- ②企業で働くことと「会計スキル」
- ③簿記・会計の能力測定と会計専門職

①では特に次の内容について講義を行った。

- a. 簿記の知識の重要性
- b. 簿記の目的は「財政状態」と「経営成績」の把握であること

- c. 簿記のゴールは決算書を作ること

②では特に次の内容について講義を行った。

- a. 会計を学び、仕事に活用し、現場を変える
- b. 現代はファイナンスの時代
- c. 効率的にお金を稼ぐことの重要性
- d. ROE（自己資本利益率）の意義

③では特に次の内容について講義を行った。

- a. 検定試験
 - ・日本商工会議所主催簿記検定（社会人・大学生が受験）
 - ・全国経理教育連盟主催簿記検定（高校生・大学生・社会人が受験）
 - ・全国商業高等学校協会主催簿記検定（高校生が受験）
- b. 会計専門職
 - ・税理士（企業の記帳や決算申告作成の助言や代行）
 - ・公認会計士試験（上場企業（大企業）の監査）
 - ・国税専門官（税金の管理業務を行う国家公務員）
 - ・警察官B（捜査2課など）

受講した学生には、上記①～③の項目について、まとめと独自の意見・感想を報告書として仕上げる作業を課した。提出はUNIPAを活用し、この提出をもつて出席と認定した。評価は理解度・意欲・文量等により行った。学生の取り組みは概ね良好であった。

●山田啓一 コンビニエンスストアのイノベーション

・このテーマを選んだ理由

私はいま3年・4年の授業で「イノベーション論」を教えています。イノベーション論は、私の専門分野である「経営戦略論」の延長線上

のテーマとして位置づけられています。世界ではいま、グローバル化と情報化によって急速な変化が起こっています。この原動力となっているのが「イノベーション」です。イノベーションはテクノロジー（技術）の問題にとどまらず、私たちの社会のあり方を大きく変え、それに対応していくことが求められるようになってきています。私の担当する「イノベーション論」はこうした観点から、経営戦略の一環としてのイノベーションについて学習を行うものです。

本日の講義では、身近な事例としてコンビニエンスストアとくに草分けであるセブン-イレブンのイノベーションについて学習していただきます。

・セブン-イレブン日本1号店の抱えた問題

売上が増えたのに赤字も増えた。調べてみたらお店の倉庫は「在庫の山」。その理由は、問屋さん（卸売業者）がケース（箱）単位で納品。たかが3000アイテムの商品でも、在庫はバカにならない。在庫費用が赤字の原因だった。配送のトラックが一日70台、店の前に止まった。交通のじま。お客様のじま→売上に影響。

・解決策

ケース（箱）単位の納品からピース（1個、2個…）単位の納品へ問屋さんと交渉

解決策→ドミナント出店方式（集中出店方式）

地域の配送センターにケースで納品、センターで小分けして、各店舗にはピースで納品

配送の効率化（一台の配送車に積み合わせ）
OFC（店舗スーパーバイザー）のアドバ
イスに使える時間が長くなる

POSシステム（Point Of Sales: 販売時点
情報システム）を使った単品管理

何が何個売れたかを情報システムに自動的に記録

アイテムごとに商品を管理→管理の精度が
向上

・セブン-イレブンの事例から得られる教訓

イノベーションは学習の賜物（たまもの）である。ここでいう「学習」とは、机上の知識学習だけでなく、「試行錯誤を繰り返しながら体験から（とくに失敗から）学んでいく体験学習」を含む（むしろこちらの方がメイン）。例えば、当てにしていたサウスランド社の大量のマニュアル類が役に立たないことが分かった→一から仕組みを作り上げなければならなかった（学習を積み重ねて）。単品管理というコンビニエンスストアの常識になった管理方法は、第1号店の赤字の原因が在庫にあったことから、ケース単位からピース単位の管理に変えることが必要となった。これを達成するためには、集中出店方式（ドミナント方式）が必要となった。他方で単品管理をするためにはPOSシステムの導入が必要であり、NECと協力して独自のシステムを開発することが求められた。これらを学習過程を通じて融合させ、現在のコンビニエンスストアのシステムが出来上がった、まさに組織学習を通じて生み出されたシステムであるといえる。

●姉川正紀

姉川が担当したオムニバス授業では、通常の授業の予定を変更し、コロナ禍の中で今後必要になると思われるオンライン授業に関する内容をおこなった。

具体的な授業内容は、図1に示す通りである。まず、日常的に利用するものとは異なる、大学独自のGoogleアカウントの作成を作成した。次に、このGoogleアカウントを利用して、Googleの提供するe-Learningシステムである、Google Classroomへの参加し、e-Learningの基本を学習した。

このe-Learningの中では、図2に示す様なGoogleの提供するビデオ会議システムであるGoogle Meetを実際に利用し、オンライン授業のデモンストレーションをおこなうと共に、その際の注意事項等を学習した。

01. Web会議の概要
02. アカウントとメールアドレス
03. Google アカウントの作成
04. Google Classroom への参加
05. Google Meet の使い方
06. zoom の使い方(1)
07. zoom の使い方(2)
08. zoom の使い方(3)
09. Microsoft Teams の使い方
10. 課題提出

図1：授業内容



図2：Google Meet を利用したオンライン授業例

さらに、2020年の前学期の時点で、最も多く利用されていると思われるビデオ会議システムであるzoomを、学生各自のノートパソコンにインストールさせた。その後、図3に示す様な実際のzoomを利用して、オンライン授業のデモンストレーションをおこなうと共に、その際の

注意事項を学習した。この様に、複数のビデオ会議システムを紹介すると共に、それぞれの特徴や違い及び注意点に関する学習をおこなった。

最後に、今回のオムニバス授業を理解しているかを確認する為に、図4に示す様な Google Classroom 上に作成した小テストを実施した。学生は、e-Learning 上で小テストを受験し、今回のオムニバス授業の理解度をリアルタイムに（受験後自動採点され、学生に結果がフィードバックされる）把握する事が可能である。

今後の課題としては、実際の授業に出席しなかった（自宅からのオンデマンド型授業のみ受講）学生が、今回の演習を中心としたオムニバス授業の理解度が低い事が挙げられる。演習を中心とした授業では、対面型の授業の優位性が確認される結果となった。

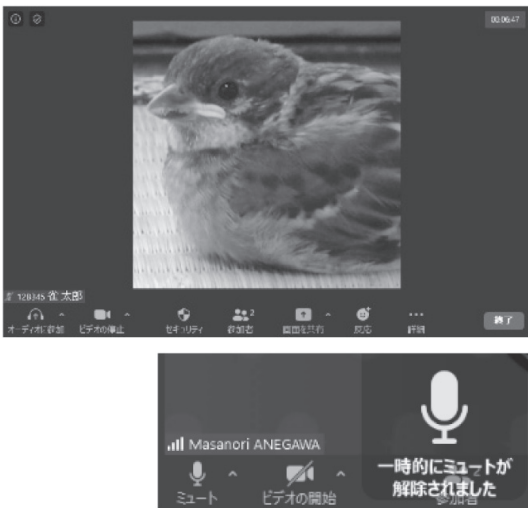


図3：zoom を利用したオンライン授業例

Q2. 今回の授業で、Google Classroom を利用しました。このようなサービスの一般的な名称として、最も適切なものを選択して下さい。*

- ※解答無し
- EC(Electronic Commerce) システム
- e-Learning システム
- Web 会議システム
- ATM システム

図4：Google Classroom 上の小テスト

●水島多美也 会計って何？

・授業内容と目的

既に簿記Ⅰにおいて簿記の学習をしていると思います。よくわかる。だいたいわかる。少し難しい。わからない。というどれかの気持ちを持って勉強していると思います。そこでこのオムニバスの授業では、簿記あるいは会計とは何を勉強するのかを少し身近な例を出しながら、考えてみたいと思います。これらから、簿記や会計の考え方として役割がどこにあるのかきちんと考えてほしい、そしてその必要性を理解してもらうことによって、現在学習している簿記Ⅰへの姿勢を再度見直すきっかけになることを授業の目的にしている。

・具体的な項目

①朝起きて既に何らかのお金を使っている

1. 部屋の電気をつける
2. トイレに行く
3. 顔を洗う

②これを記帳していく

電気代20円
水道代30円

③企業経営においても同様

企業としてのソフトバンク・ホークス

・収入・支出

入場料水道光熱費

広告・放映権 選手の年棒、球団職員の給料

グッズ販売・飲食

JR 九州、西日本鉄道の利益

④簿記・会計とは何か

簿記・・・帳簿記帳の略

小遣い帳や家計簿

(企業) 会計・・・企業の経済事象ないし経済活動を、主として貨幣額で記録・計算・報告する手続き

⑤簿記にはルールがある

1. 借方（左側）と貸方（右側）
電気や水道代20円を現金で支払った
水道光熱費 20 現金 20
問題 a. 選手の給料300円を現金で支払った
①給料300 現金300
②選手の給料300円 現金300円
2. 勘定科目 資産・負債・純資産・収益・費用
3. 金額で記入 まずはしっかり覚える

⑥簿記（複式簿記）の歴史と儲け（利益）の意味

1. 1494 ルカパチョーリ（ヴェニス）の僧侶）
算術・幾何・比および比例総覧
ズンマともいう
2. 1873 福沢諭吉 帳合の法
（Common School Book-keeping の翻訳）
3. 儲け（利益）を計算し、知らなければ、
会社の経営はできない、あるいは財産管理
もできない

⑦簿記によって利益計算 簿記によって利益や
損失を計算することできる 更なる知識の発展
・年商（売上高）だけではなく、利益の重要性、
売上高利益率簿記・会計関連科目の学習

●徐涛 流通革新と生活様式の変化

徐が行った授業の内容と学生の反応などについて、以下のようにまとめ、紹介する。まず、このテーマにした理由だが、流通科学部に入学した学生に、少しでも流通系の科目について理解しようという考え方にに基づき、なお、コロナ禍の下で、生活様式の変容が求められている目下の社会的な要請を踏まえ、「流通革新と生活様式の変化」というテーマにしている。次に、初心者には少しでもわかりやすく、興味を持ってそうな、身近な内容から考えるという観点から、具体的には小売流通に焦点を当てたわけであ

る。また、学生たちの大半はいずれ3年時に「流通チャンネル論」や「国際流通論」などの専門科目を履修するという点を鑑み、1年時にチャンネル論的な思考や国際的に物事を考える習慣づけができれば、と考えた。

講義の構成からすると、「1. そもそも流通とは？」では、「そもそも流通って一言でいうと何ですか？」という、これまで流通科学部の4年就活生が実際経験した企業面接での質問から始まり、学生の関心が集められた。それに、流通の説明を通じて、同類他校の経済学部や商学部などとの違いも説明して、学生に流通科学部の一員としてのプライドと帰属感を感じさせられたかと思われる。それに、流通システムや流通チャンネル、小売の業態などの概念を説明し、流通が社会にとって欠かせない重要な部分であると紹介した。「2. 私たちの暮らしと流通の発展——小売流通を例に」では、激変する日本の流通、流通業の2強、新業態の台頭などの事例を交えて紹介した。「3. 小売流通の変化について」では、PB商品の人気や、国内外のEコマースの発展と小売業態の革新を紹介し、米中小売の新業態について説明した。「4. 業態革新とその影響」では、電子決済の変化、中国の生鮮デリバリーアプリの利用急増、有店舗販売の対策や「グローサリント」の出現などの状況を解説した。「5. まとめ——問題点と課題」では、IT・AI技術による業態革新はこの先にもさらに進化すること、業態革新による課題や問題点も存在すること、小売ではネットか実店舗かという業界の垣根を越え、消費者ニーズや新しいライフスタイルを満たすビジネスモデルを構築できるかが勝敗を分けるポイントであること、を学生と共有した。最後に補足紹介として、「大学のゼミとは何？」について、徐ゼミを事例に説明した。

授業の課題としては、「今日の講義で一番印象に残ったことを述べる（100字程度）3点、今日の講義の主なポイントをまとめる（100字

程度) 3点、今日の講義でよく理解できたところ、疑問に思ったこと、などを述べる。(200~300字程度) 4点」をUNIPAに記入することを課している。

授業を実施した感想と学生の課題によるフィードバックとして、9割以上の受講生が興味を示してくれて、真面目に課題にも取り組んでくれた。それに大学の講義を聞いて、メモをノートにとる練習を試みるという、もう一つの目的も大まかに達成している。担当者として、一部、在宅にてネットで講義を受けている学生の課題回答のボリュームが欠けたこと、講義内容の理解に誤解があったことから、ネット授業の限界を感じられた。

●中川隆 経済学入門

中川が担当したオムニバス授業では、1年生の必修科目である「経済学入門」の復習をおこなった。当該科目は4月以降WEB授業となっており、UNIPAの授業Q&Aなどを通じて、学生達の授業内容の理解度に関する不安の声をかねてより聞いていた。スタディスキルIでは、第9回(6/4(木))以降、対面・WEB併用の授業が可能となったため、これを機会と捉え、授業理解をより深める意図をもって、担当する必修科目の復習をおこなった。

講義「経済学入門」では、世界的に著名な経済学の入門書である『マンキュー入門経済学』を使用している。本書の第1章は「経済学の十大原理」について解説された章であるが、その前半部分「人々はどのように意思決定するか」の節(pp.5-13.)を中心に復習をおこなった。より具体的には、「第1原理：人々はトレードオフ(相反する関係)に直面している」「第2原理：あるものの費用は、それを得るために放棄したものの価値である」「第3原理：合理的な人々は限界原理に基づいて考える」「第4原理：人々はさまざまなインセンティブ(誘因)に反応する」の4つの原理について解説した。

対面授業に参加した学生には、「WEB授業では不十分な理解だったが、対面形式で質問ができ、有意義であった」といった好意的な意見もあった。

なお、学生には、「(上記の)4つの原理のうち、最も関心のある原理について、例を挙げて説明せよ」を課題としたレポートを課している。



課題に取り組む学生達

(3cクラス、2020年7月9日(木)撮影)

●前嶋了二 クリティカルシンキング(批判的思考法)

前嶋が担当したオムニバス授業では、論理的思考方法のなかでも特に重要とされている「クリティカルシンキング(批判的思考法)」について学習した。

高校までの教育においては、教えられたことを覚えることが学習の中心となっており、「事実」として教えられていること自体を疑ってみるという発想が養われていない場合が多い。流通科学部のほとんどのゼミでは、卒業論文の執筆を課題としており、リサーチクエストを明確化し、論文自体の質を高めていくためには、早い段階における論理的思考方法の習得が求められるだけでなく、積み重ねられたロジックのひとつひとつの真偽性を確認するうえでのクリティカルシンキングを身につけておくことが必要となる。それは、実社会においても同様であ

り、就職後の企業における企画の作成や営業計画の作成など、様々なビジネス場面においても求められる思考方法である。

講義においては、高校までの日本史で史実として教育されている出来事や日本のインバウンド観光政策について、ロジカルツリーやピラミッドストラクチャーを用いて整理し、ロジックの真偽性について解説した。


クリティカルシンキングのエッセンス

クリティカル・シンキング (Critical Thinking): 直訳「批判的思考」
 ロジカルシンキングだけでは前提条件が間違っていれば、間違った結論になる

- ・「なぜ」「どうして」「本当なのか」といった疑問を忘れないこと。
- ・物事を客観的、かつ、冷静に判断するうえで大切。
- ・考え方、方法、分析結果、結論などが、本当に正しいか検証し、本質を捉える。
- ・「本当にそれが正しいのか？」という問いかけをし、客観的な視点で吟味し、よく見定めること。

ほんとかいなー？

ふーん、
へー、
そうなんだー




学生への課題

【考察のポイント】
 ペットボトルは、分別して捨てるから、リサイクルされている。環境省も、「92.2%を回収し、84.8%をリサイクルしている。」と公表している。だから、ペットボトルは、リサイクルボックスに捨てれば、リサイクルできる。

【ポイント1】 上記の命題について、あなたは正しいと考えますか、間違っていると考えますか。その根拠をあげて、説明してください。

【ポイント2】 では、この問題を解決するために、あなたはどのように対応しますか。

【提出方法】 UNIPA「課題」Web提出
【提出期限】 講義の翌週の火曜日24:00
 ※期限を過ぎての提出は、「遅刻」とし減点しますので注意してください。



学生にはレポート課題でも取り上げたSDGsに関連するトピックとして、プラスチックボトル（ペットボトル）のリサイクルに関する『環境白書2018/2019年度版』のコラムに関し、クリティカルシンキングによる反証を400字以上で行うことを課題としたレポートを課した。

提出されたレポートに対しては、UNIPAを用いて個別に添削とフィードバックを行った。的外れの解答やインターネットサイトのコピー＆ペーストも少なからず見られたが、多くの学生が、毎日購入しているリサイクルボックスに入れ込んでいるペットボトルについて、国際基準に照らしてみるとわが国ではわずか23%不足しか行われていないことに驚き、東南アジアなど海外で起きている深刻なプラスチック汚染と自らの生活とのつながりについて理解し、自らの行動改善すべきSDGsの問題として論じていたことは喜ぶべきことである。

3. 考察

スタディスキルIは、各指導主任によるテーマ授業を行う点に特色がある。テーマ授業の共通の趣旨は、高等学校と大学との接続、特に学ぶための姿勢の違いについて、学生自身に考えてもらおうというものであった。学生には、さまざまな授業を通して、大学生活において必要なアカデミックリテラシーとは何かを考えていってもらいたいということが、我々スタディスキルI担当の教員の願いである。

今年度は、感染症流行によって、前半部はWeb授業をせざるを得ない状況となった。本来、スタディスキルIは双方向性を目的とする授業であったため、各教員共に、Web授業に関しては、試行錯誤の状態であった。その中で、担当教員が意見を出し合って、何とか授業を終了することができた。ただし、科目の性質上、Web授業にはなじまない点も多くあった。特に、到達目標として掲げていた「大学生活の心構えを知り、新しい仲間との親睦を図ることができる」という点に関しては、Web授業で達成することが困難であった。来年度以降、どのようなかたちで授業が行えるかはいまだ明確ではないが、今年度の経験を生かして、大学入門授業の充実をはかっていきたい。